

来月14日 八戸小唄流し踊り

# 参加10回目 意欲さらに

## 八学短大生120人練習に熱

7月14日に八戸市中心街で開催される「第47回八戸小唄流し踊り」(東奥日報社主催)に向け、八戸学院大学短期大学部(外崎充子学長)の学生たち約120人が踊りの練習に汗を流している。同大学部の参加は前身の八戸学院短期大学も合わせて今年で10回目。学生たちは節目の年の参加を盛り上げようと熱を入れている。

(樋渡慎弥)



八戸小唄流し踊りに参加するのは、幼児保育学科とライフデザイン学科の1年生が中心で、6月上旬から体育の授業を活用して練習している。

27日は幼児保育学科の1年生約50人が同大学部の体育館で練習に臨んだ。大きな円をつくった学生たちは音楽に合わせて、足運びや手の動きなどを入念に確認していた。

初めて参加するといっ清水捺乃さん(18)は「足の動かし方が難しいが、一つ一つの動作に意味があって

八戸小唄流し踊りの練習をする学生たち

奥深い」と話した。八戸七夕まつりの前夜祭として行われる八戸小唄流し踊りは、八戸小唄の誕生40周年を記念して1971

(昭和46)年から毎年開催されている。今年は7月14日午後5時半から14団体の約千人が同市十三日町から三日町まで踊りを披露す

る。八戸ポータルミュージアム「はっち」裏の番町スクエアでは一般市民も生演奏に合わせて踊りを楽しむことができる。